

# 株式会社カネイファーム

※2018年3月現在

代表者名	矢野 正英	資本金	10 百万円
設立年	2013 年 6 月 7 日	売上高	224 百万円 (2016 年 11 月期)
事業内容	生産 (フリルアイスレタス、クラウドレタス、サラダホウレンソウ)、飲食、作業受託	経営規模	畑 1.4ha、作業受託 (サラダホウレンソウ)→一貫受託 0.34ha、バックセンター 990㎡
従事者数	40 人 (うち女性 29 人。女性内訳: 役員 1 人、管理職 2 人、一般職 1 人、常勤パート 25 人)		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援]</p> <p>産前産後休業、育児休業、介護休業、看護休暇、短時間勤務制度等の措置、時間外労働及び深夜業の制限、母性健康管理のための措置、育児・介護休業中の能力向上、育児休業代替要員を確保</p> <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> <p>施設設備関係 (休憩室・屋内・野外トイレ)、重労働等の業務改善</p>		



## 経営概況

株式会社カネイファームは、徳島県板野郡藍住町にて、葉物 (フリルアイスレタス、クラウドレタス、サラダホウレンソウなど) を水耕栽培する会社である。藍住町は県中央を流れる吉野川の下流北岸に位置し、古くから阿波梨の産地として知られる。徳島市のベッドタウンとして、人口約3万人の住民には子育て世代が多いのが特徴だ。

2013年に法人化し、現在はハウス (14,000㎡) を稼働させ、売上高は2億2,434万円 (2016年度11月期)。2016年2月には、直営店として「農園直営旬感ダイニング<アクリエ>」をオープンし、主な取引先のバイヤーへのプレゼンテーションの場とし、販売先の新規開拓につなげている。

さらに県内のほとんどのスーパーには自社商品の陳列棚が設けられ、2012年には県内の生産者と株式会社菜々屋を設立。自社に留まらない販路開拓や、農業界全体の魅力向上に向けて切磋琢磨している。

## 1. 経営者の理念・意識改革

代表の矢野正英氏は、父の代まで梨農家だったが、2005年に施設野菜の生産に踏み切った。周囲に住宅が増えたことで農薬散布がしにくくなったことに加え、身長が高い正英氏にとって中腰となる梨栽培は作業的に厳しいことも理由のひとつになったという。

正英氏の妻で、役員の望美氏は、専業農家の出身。ただし結婚前は、看護師として病院に勤めていた。女性の多い職場で働けなめで、出産、育児に追われる先輩や同僚と接し、「女性が働くには、子育てとの両立が不可欠である」と感じていた。

やがて正英氏と結婚し、就農。望美氏は日々の仕事をするなかで、男性よりも女性の方が職場の定着率が高く、また、力仕事は苦手でもバック詰めや手先の細かい作業は早く・正確にできることに気が



ついたという。その気づきから望美氏は、「女性を中心に、農業分野の起業を目指したい」と決意。夫である正英氏とともに、同社を設立するに至った。

## 2. 女性が働きやすい現場の体制を組む

現在、2児の母となった望美氏は、女性が働きやすいように、清潔な環境を保ち、子育てをしながら仕事ができる会社を目指している。前職での経験を活かし、命の現場を任される病院での充実した管理体制を自社に利用できないかと考え、社員の労務管理や商品の品質管理など、日々改善に努めている。

たとえば、現場スタッフが作業状況などをiPadに入力し、このデータを共有することで、スマートフォンさえあれば、現場に行かなくても、定植率、生育状況、廃棄率、責任者を把握することが可能となった。現場スタッフ自身が現場で判断できる場面も多く、スタッフの自立につながっている。

こうした管理体制は、責任の所在や原因を明確にし、成果として、廃棄率の低減、生産効率の向上、さらにはGLOBAL G.A.P.の取得にもつながっている。

## 3. 女性が多い現場ならではの工夫

同社の製造ラインは、葉野菜のパック詰め作業などの、手先が細かく、かつ効率的に動かす必要のある仕事で、多くの女性従業員が活躍している。

主力商品であるフリルアイスレタスなどを扱う「レタス袋詰め部」では、20代～30代の女性パートが大半を占める。そこで産前産後休業や育児・介護休業規定を定めるとともに、子供の行事（保育、学校行事など）にも自由に休暇を取得できる「家族休」も制度化。また、パートは15時退社、時給制など、子供を預けて働く主婦層にとって、働きやすい体制が整えられている。

幼い子供を抱える世帯は特に、急な休みの要望も多いというが、「お互いさま」の精神で、たと

え急な休みでも3名までは対応可能な体制ができているという。

また「ほうれん草袋詰め部」は、大半が50代以上の女性パートで、創業時から勤務しているスタッフ。こちらは時給制ではなく出来高制を取り入れ、子育てを終えて自由な時間が多い主婦層に働きやすい環境にしている。

## 4. 女性のキャリア形成にも着目

同社は、入社時期や性別などに関わらず、本人の能力次第でキャリアアップが可能な社風。たとえば子育て世代が多い「レタス袋詰め部」では入社4年目の子育て中の女性社員が現場をまとめる。

また直営店の「農園直営旬感ダイニング<アクリエ>」では、管理職の女性社員が接客などパートの指導を行う。この社員は、以前ウエディングプランナーとしてホテルで勤めていた経験を活かし、メニュー表や、パンフレットのデザインを担当するほか、野菜で飾り付けたレストラン結婚식을企画するなど、多岐にわたり活躍している。

こうした女性が多い職場で、専務の望美氏が果たす存在は大きい。女性視点でのコミュニケーションがなされることで、社全体のコミュニケーションが循環し、日々の事業が円滑に進んでいるといえる。

### 審査委員の声

矢野正英代表が農業資材会社の営業で培ったビジネススキルを活かして売上高を拡大している。一方、専務である妻・望美氏が看護師時代の経験を活かして社員の労務管理や商品管理などを担当するなど、夫婦の補完関係が有効に機能。また、産前産後休業や育児・介護休業規程の整備だけでなく、子育てを終えた主婦層のパートには出来高制を導入するなど各年齢層の女性が働きやすい工夫をしている。IT活用や、直営レストランの店舗デザインなどでも女性が活躍。